

平成19年度岩手県立総合教育センター

小・中学校における
キャリア教育の推進に関する研究
- キャリア教育モデルカリキュラムの作成をとおして -

(第1報)

研究協力校

花巻市立湯口中学校

研究協力員

花巻市立花巻小学校 教諭 高橋 学

花巻市立南城中学校 教諭 鈴木 俊文

花巻市立花巻中学校 教諭 宮川 琢夫

岩手県立総合教育センター

教科領域教育室

齊藤 義宏

菅原 桂吾

佐藤 藤 亥 亮

目 次

研究目的	1
研究の方向性	1
研究の年次計画	1
平成19年度の研究内容与方法	1
1 目標	1
2 研究内容与方法	1
3 研究協力校	2
研究結果の分析と考察	2
1 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想	2
(1) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本的な考え方	2
(2) キャリア教育モデルカリキュラム作成の意義	3
(3) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図	4
2 キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案	5
(1) キャリア教育モデルカリキュラムの作成手順と留意点	5
(2) キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案	5
研究のまとめ	6
1 研究の成果	6
(1) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想の立案	6
(2) キャリア教育モデルカリキュラム作成に関する推進試案の作成	7
2 研究の課題	7
【引用文献】	
【参考文献】	

研究目的

離職率の高さやフリーター、ニートの問題に見られるように、若者の勤労観・職業観の未熟さや職業人としての基礎的資質・能力の低下等の問題が懸念されている。また、将来の夢をもてず、学ぶ目的や意欲を欠いた子どもたちの増加も指摘されている。このような進路にかかわる諸問題を背景に、児童生徒の発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進が求められている。

しかしながら小・中学校における現状は、キャリア教育のとらえや指導の在り方に戸惑いや認識のずれが見られるなど、その理解は十分とは言い難い。キャリア教育推進の基盤となる全体計画等のカリキュラム整備も進展していないため、教育課程のどこで、どのような指導を行うかといった指導内容や指導方法が明確になっていないこと、職場体験等の活動が指導の計画性や系統性を欠いた一過性の活動にとどまっていること等の実践上の課題も多く指摘されている。

このような状況を改善し、組織的・系統的なキャリア教育を推進するためには、キャリア教育についての確かな理解に基づいた具体的な指導計画を整備する必要がある。

そこで、本研究は、各校のキャリア教育指導計画作成を支援する資料として、キャリア教育の実践上のポイントや指導の方向性、具体的な実践事例や指導計画等を示したキャリア教育モデルカリキュラムを提示し、小・中学校におけるキャリア教育の推進に役立てようとするものである。

研究の方向性

小・中学校におけるキャリア教育を推進するため、キャリア教育モデルカリキュラムを作成し、提示する。

研究の年次計画

この研究は、平成19年度から平成20年度にわたる2年次研究である。

1 第1年次（平成19年度）

- (1) 小学校キャリア教育モデルカリキュラム（平成18年度作成）の内容拡充
- (2) 中学校キャリア教育モデルカリキュラム（理論編・指導計画例・研究協力校での授業実践事例）の作成

2 第2年次（平成20年度）

- (1) 小・中学校キャリア教育モデルカリキュラムの普及
- (2) 小・中学校キャリア教育モデルカリキュラムに基づく授業実践の支援
- (3) 小・中学校キャリア教育モデルカリキュラムに基づく授業実践例の収集と分析，検討
- (4) 小・中学校キャリア教育モデルカリキュラムの妥当性の検討と修正
- (5) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する研究のまとめ

平成19年度の研究内容与方法

1 目標

文献等から学校教育におけるキャリア教育の意義や位置付けを分析・検討した上で、先行研究の「特別活動を中心として展開する小学校キャリア教育モデルカリキュラム」の内容を拡充するとともに、中学校キャリア教育モデルカリキュラムの作成上の視点と方向性を明らかにする。

2 研究内容与方法

- (1) 小学校キャリア教育モデルカリキュラム（平成18年度作成）の検討と内容拡充
- (2) 中学校におけるキャリア教育モデルカリキュラム（理論編・指導計画例・授業実践事例）の作成

3 研究協力校

花巻市立湯口中学校

研究結果の分析と考察

1 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想

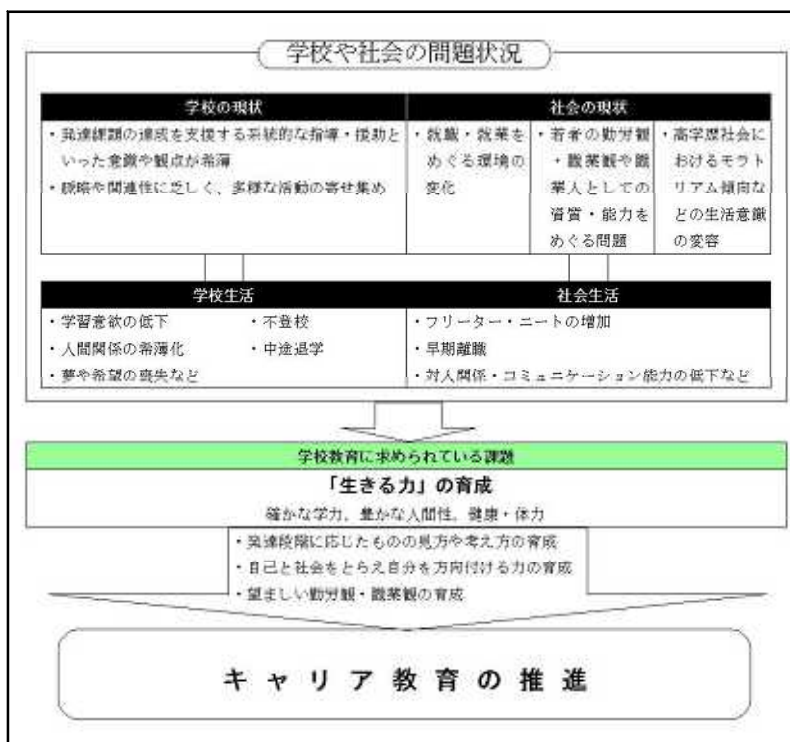
(1) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本的な考え方

ア 学校や社会の問題状況と学校教育に求められている課題

文部科学省より平成16年に示された、「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告書」(以下「キャリア教育報告書」と略す)では、社会や学校の現状について以下のような指摘がされている。

経済のグローバル化が著しく発展し激しい競争を強いられる中、企業はコスト削減や経営の合理化を余儀なくされている。また、職業人に求められる資質や能力も大きく変化し、採用においては、即戦力志向の高まりや業務の高度化に伴って、経験者採用や中途採用、さらには、外部委託等の比重が高まるとともに、定型的業務については、正規雇用から一時的・非正規雇用への切り替えが、広い範囲にわたって進められおり、就職や就業をめぐる環境が変化している。若者の働くことへの関心、意欲、態度、目的意識、責任感、意志等、広い意味での勤労観、職業観の未熟さをはじめ、コミュニケーション能力や対人関係能力、基本的マナー等、職業人としての基礎的資質・能力が低下している。少子化や家庭の経済的ゆとりの増大、高学歴志向等を背景として、大学、短大、専門学校等の高等教育機関に進学する者の割合は著しく上昇してきた。そうした動きに伴って、若者が職業について考えたり選択・決定したりすることを先送りする傾向、いわゆるモラトリアム傾向が強くなり、進学も就職もしようとしなかったり、進路意識や目的意識が希薄なまま「とりあえず」進学したりする若者が増加している。このような、学校から社会への移行をめぐる課題や子どもたちの生活・意識の変容に対応するために、確かな学力、豊かな人間性、健康・体力を備えた「生きる力」を身に付け、日々変化し続けている社会に流されることなく、今後直面するであろう様々な課題に柔軟にかつたくましく対応することができる児童生徒を育てることが、学校教育に望まれている。

しかし、学校では、すぐ目の前に迫った上級学校への進学や就職のための進路決定の指導に重点が置かれ、出口指導や進学指導、就職指導に終始しがちで、人生



【図1】学校や社会の問題状況とキャリア教育推進の必要性

をどのように生きるかといった生き方指導の視点から、自らの生活の在り方を考えさせたり、将来自立した社会人・職業人として生きていくために必要な能力や態度、資質を育てる組織的・系統的な教育はあまり行われてこなかった。

以上のことから、学校教育において、「生き方」という視点で、一人一人の児童生徒の自己実現を図り、自らの責任で自らの人生を選択・決定していくことができる力を養う教育、すなわちキャリア教育を行うことが必要となってきた。

学校や社会の問題状況とキャリア教育の必要性を【図1】にまとめた。

イ キャリア教育のとらえ

「キャリア教育報告書」では、キャリア教育について、「児童生徒一人一人のキャリア発達を支援し、それぞれにふさわしいキャリアを形成していくために必要な意欲・態度や能力を育てる教育。端的には、児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」と定義している。

キャリア教育の実践に取り組んでいる学校の中には、前述の定義の「端的には、児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てる教育」の「職業観」の部分だけに目を奪われてしまい、キャリア教育の内容が、直接的に職業に結び付かなければならないととらえてしまい、方向性を見失っている学校も見られる。本研究ではこの点に十分留意し、児童生徒の社会性の育成や発達段階にも目を向けることを忘れず、キャリア教育の定義を以下のように定めた。

キャリア教育の定義

児童生徒一人一人が、社会の中での役割や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育てる教育。

キャリア教育の内容

発達段階に応じたものの見方や行動の仕方の育成にかかわる内容

自己と社会をとらえ自分を方向付ける力の育成にかかわる内容

望ましい勤労観・職業観の育成にかかわる内容

本研究における「キャリア発達」とは、児童生徒が発達段階にふさわしい能力を獲得していく過程をとらえる。「勤労観」とは、勤労に対する価値的な理解であり、働くことそのものに対する個人の価値的な見方や考え方、態度をとらえる。「職業観」とは、職業に対する価値的な理解であり、生きていく上での職業の意義や役割についての認識をとらえる。

(2) キャリア教育モデルカリキュラム作成の意義

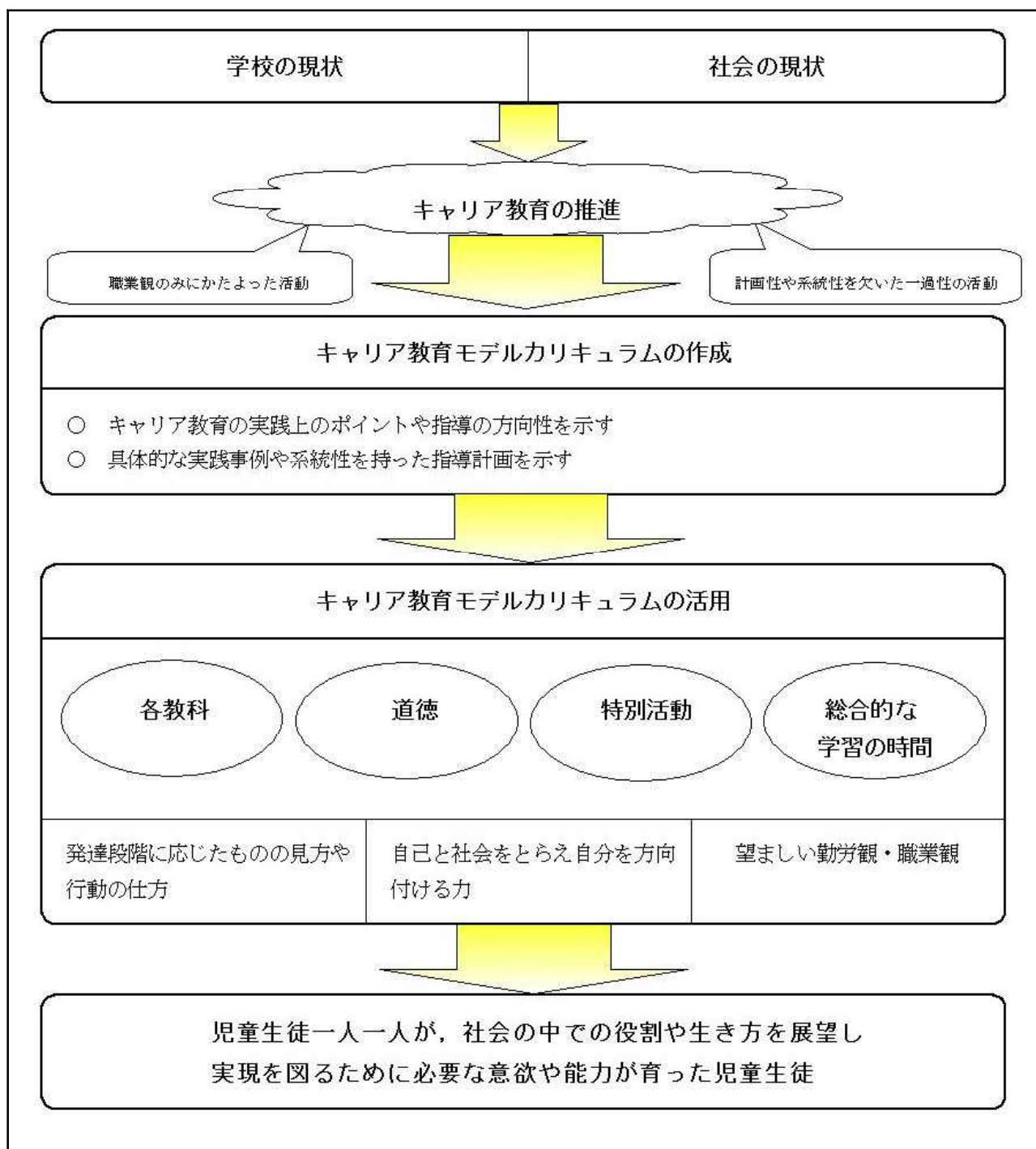
キャリア教育は、児童生徒一人一人が、社会の中での役割や生き方を展望し、実現を図るために必要な意欲や能力を育てることを目指すものなので、特別活動や総合的な学習の時間だけで行うのではなく、各教科や道徳においても取り上げたり関連させたりするなど、児童生徒が行う全ての教育活動をとおして推進していかなければならないものである。その際、それぞれの活動の意義を明確に示し、組織的、系統的に取り組んでいくことも忘れてはならない大切な点である。キャリア教育は児童生徒一人一人のキャリア発達を支援するものでもあるが、一人一人のキャリア成達は、知的発達や社会的発達と密接な関係があり、段階を追って育成されるものなので、児童生徒一人一人の発達段階に応じて推進していかなければならないものである。しかし、これまでの指導では、キャリア教育のとらえが職業観のみに偏ったものであったり、総合的な学習の時間だけの取組であったり、キャリア教育を推進するために必要な全体計画等のカリキュラム整備が進展していなかったりしたために、キャリア教育が指導の計画性や系統性を欠いた一過性の活動にとどまってしまうていた。

そこで、キャリア教育の実践上のポイントや指導の方向性、具体的な実践事例や発達段階に対応し系統性を持った指導計画を示したモデルカリキュラムを提示することで、キャリア教育の正しい理解を図り、小・中学校におけるキャリア教育を推進することができると思う。

本研究では、このモデルカリキュラムをキャリア教育モデルカリキュラムと呼ぶこととする。

(3) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図

これまで述べてきたことを基に、【図2】のように基本構想図としてまとめた。

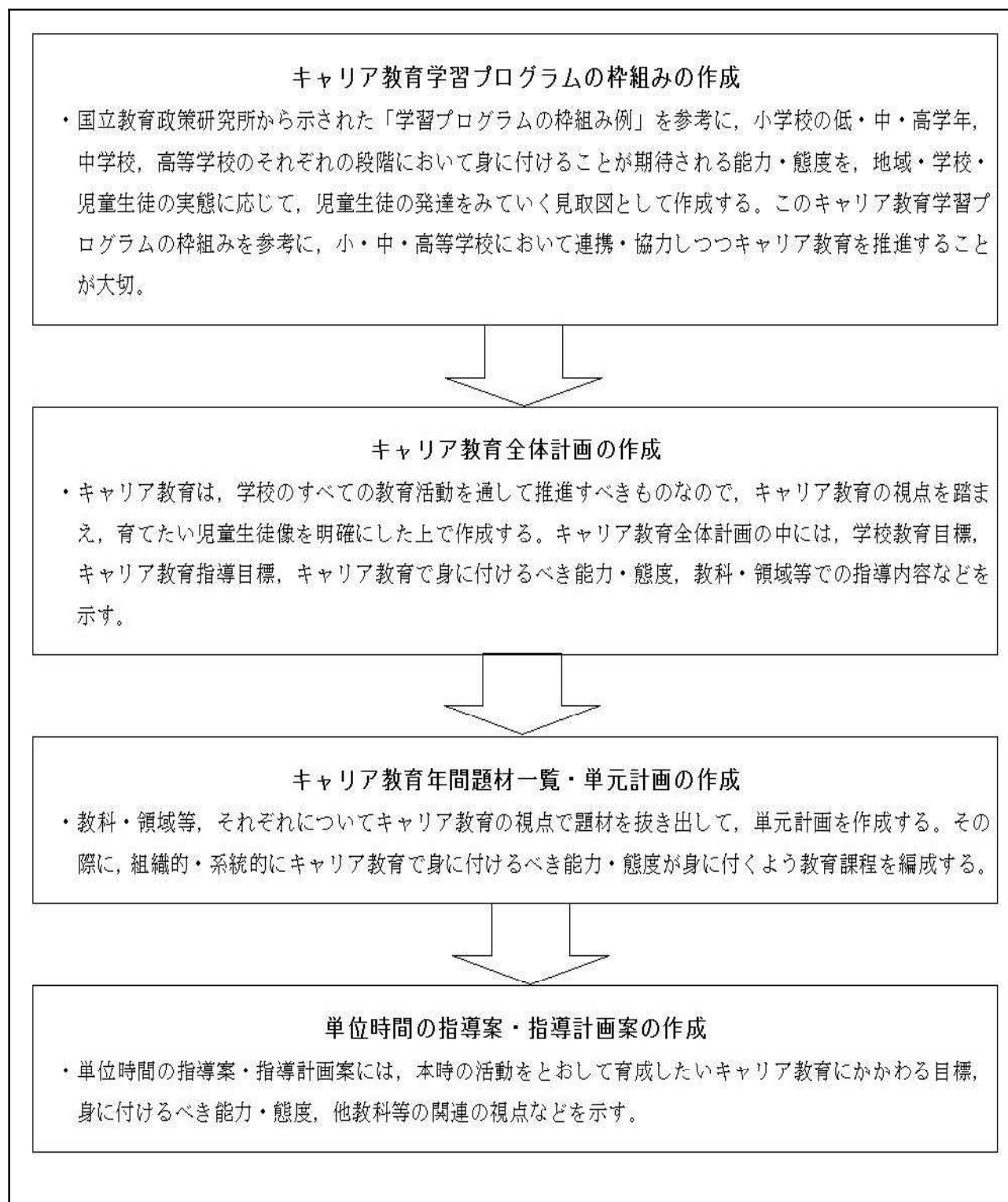


【図2】小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想図

2 キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案

(1) キャリア教育モデルカリキュラムの作成手順と留意点

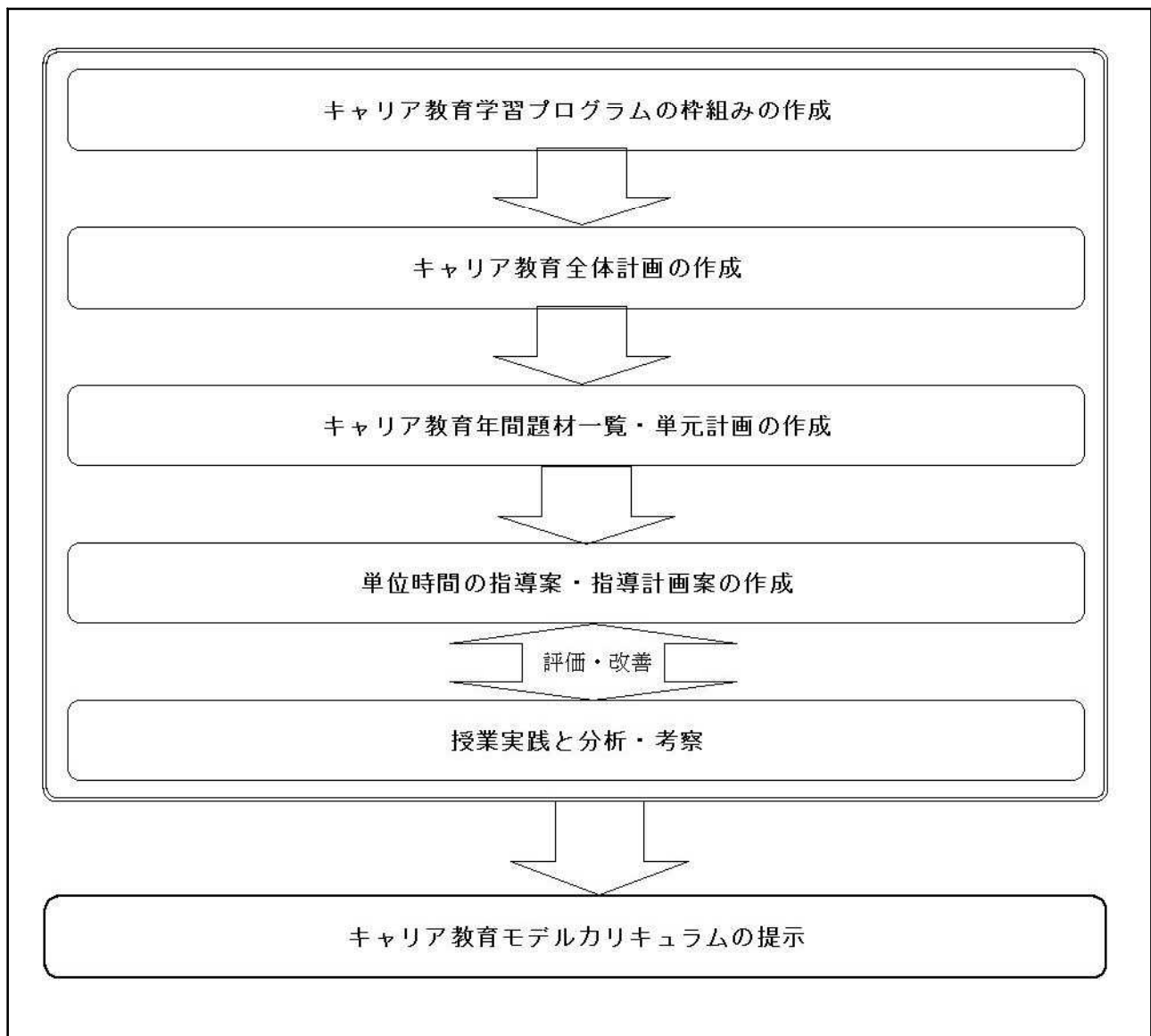
キャリア教育モデルカリキュラムの作成手順と留意点を【図3】に示した。



【図3】キャリア教育モデルカリキュラムの作成手順と留意点

(2) キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案

これまで述べてきたことを基に、キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案を次頁【図4】のようにまとめた。



【図4】キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案

研究のまとめ

1 研究の成果

本研究は、小・中学校におけるキャリア教育を推進するため、キャリア教育モデルカリキュラムを作成し、提示することをめざしたものである。本年度は、文献等から学校教育におけるキャリア教育の意義や位置付けを分析・検討した上で、先行研究の「特別活動を中心として展開する小学校キャリア教育モデルカリキュラム」の内容を拡充するとともに、中学校モデルカリキュラムの作成上の視点と方向性を明らかにすることに取り組んできた。

本年度の研究内容の成果について、以下のようにまとめる。

(1) 小・中学校におけるキャリア教育の推進に関する基本構想の立案

主題にかかわる先行研究や文献等から、学校や社会の問題状況とキャリア教育の必要性、キャリア教育推進のために、キャリア教育モデルカリキュラムを作成する意義などを明らかにすることができ、キャリア教育を組織的・系統的に進めるための基本構想を立案することができた。

(2) キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案の作成

文献，先行研究等から，キャリア教育において身に付けるべき能力・態度を組織的・系統的に培うためのキャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案を作成することができた。

2 研究の課題

今年度は，残っている3ヶ月で，キャリア教育モデルカリキュラムの作成に関する推進試案に基づいて，小学校キャリア教育モデルカリキュラム（平成18年度作成）の内容拡充と，中学校キャリア教育モデルカリキュラムを作成する。

【引用文献】

文部科学省（2004），『キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議報告』，pp.3 - 8

【参考文献】

小島 貴子（2004），『子どもを就職させる本』，メディアファクトリー

仙崎 武・波場 望・宮崎 冴子（2002），『21世紀のキャリア開発』，文化書房博文社

前川 岳詩（2006），『将来を見つめ自らの生き方を考える力を育てる小学校キャリア教育の推進に関する研究』，岩手県立総合教育センター

三村 隆男（2004），『キャリア教育入門 その理解と実践のために』，実業之日本社

三村 隆男（2004），『はじめる小学校キャリア教育』，実業之日本社

文部科学省（2006），『小学校・中学校・高等学校 キャリア教育推進の手引』

文部科学省（2005），『職場体験ガイド』

吉田 辰雄（2005），『キャリア教育論 進路指導からキャリア教育へ』，文憲堂